

特集

地域に生業をつくる

特集4

宇和島市

一次産業を100年後 につなぐ想い

～持続可能な水産業を家族と共に～



スリーラインズ
株式会社
代表取締役
山内 満子

起業の経緯

『さほど大きな夢も希望も抱いていなくても、「ふつうの主婦」が周囲に巻き込まれて



遊子地区の様子

調子に乗っちゃうと、とんでもないことをやっちゃった。』その結果が私の起業であり、新しい生業の創出でした。
2008年5月から2016年2月までの間、長引く魚価の低迷と餌の高騰、後継者不足など様々な要因が重なって会員の減少に歯止めが利かなくなり、解散の危機に直面していた遊子漁協女性部の部長として活動しました。この活動が現在の原点ではありますが、重要な点は強制的に部長就任が決まったところでは、それまで地域の未来を考え、自分が地域の役に立つなどは、露ほども思ったことなかった「ふつうの主婦」が、この役に就かされたことで苦悩しながらも周囲と関

わりはじめ、協力して地域を盛り上げようと奮起し始めたのです。幸いにも執行部のメンバーに恵まれ、様々な内部改革や漁協への提案ができました。全国の方に遊子を「ゆず」と読んでもらえ、子供



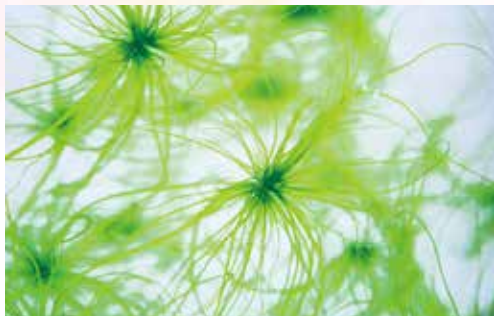
女性部のメンバーたちと

たちに遊子の宝の海を残すために活動をした8年間でした。結果、この活動の中で「内閣総理大臣賞」をはじめとする8つの賞を戴き全国への知名度を上げることとなり、一応当初の目標は達成できたと区切りをつけることにしました。
部長引退後の4月に「えひめいやしの南予博2016」が開催され、培ってきたノウハウを生かして「宇和海の魚を知ってお魚博士になろう!」のテーマのもと、「スリーラインズ」と名付けたグループ名を掲げ、スタートしました。家族で取り組んだ体験事業がそのまま法人化へと繋がっていき、やってみたかったコアな部分も実現させることができたのでした。

現在の活動

長男がUターンしてきたことから新事業へ関心を持つようになった頃、ひょん

な事からアジアオノリに出会って、あれよあれよという間に不思議な出会いや協力してくる家族のお陰もあり、アジアオノリ陸上養殖事業への第一歩を踏み出すことができました。井戸掘り、試験操業、販路開拓、商品開発、養殖場整備、加工場兼事務所建設を、「ふつうの主婦の、ど素人」が試行錯誤しながら知らない世界に飛び込んでやってきました。今思うと、恐ろしく感じることも多々あります。知らないからこそ飛び込めたのだと、今では笑い話になっていく次第です。でも、そ



きぬ青のり Baby



陸上養殖の現場



養殖体験の様子

の「ふつうの主婦の、ど素人」がのたまう夢物語のような話に、真剣に耳を傾けてくださった方々が、現在の貴重な取引相手となっています。本当に感謝しても感謝しきれないくらいの想いでいっぱいです。

今後の展開

このような事業に挑戦する中で、夢のなかつた私に大きな夢が芽生えてきました。「田舎での幸せな暮らしの実現」です。防災でも減災でもなく山や畑を開拓して災害に対応していける地盤作りをしていくことです。一度自然災害が来れば田舎の復旧は取り残されてしまいます。2018年の7月7日の西日本豪雨で娘が被災した時にこのことを強く感じました。一瞬で家財道具や車まで無くなり、命の恐怖まで感じた豪雨災害。その教訓を生かしていきたいと思います。と思うのです。

会社の大規模化は目指しません。家族で幸せに生活していける範囲で継続できる養殖を目指します。いわゆる持続可能な



家族と一緒に走っています

な産業の創出です。良いものは良いと評価してもらえぬ市場で、自分で価格を決められる養殖を目指したいのです。

「都会は、遊びに行くところ、生計や、余暇は田舎で！」が家族の目標であり合言葉です。長男に続いて次男のUターン、同じ想いをもっていた長男の嫁も東京から嫁いで来て最強のメンバーが加わりました。このまま事業が軌道に乗れば、更なる展開も見えてくるはず。そこに向かって家族一丸となつて取り組んでいきます。

課題

現在の青のり市場は、主要産地である吉野川や四万十川での収穫が極端に減少して価格高騰が続いている状況です。この状況が長く続いてしまうと輸入枠の拡大や原材料への転換が始まってしまう懸念もぬぐえませんが、

自然環境に左右されないであろうとの予測で始めた陸上井戸海水養殖事業で、当初の赤潮対策には対応できたのですが、陸上であっても様々な自然環境の変化を受けることもわかってきました。今後は、山積みの課題を解決して一日も早く生産量を増やし需要に応えることに尽力しなくてはいけないと感じています。

「ふつうの主婦」の小さな一歩ですが、地域に生業をつくる一助となっていることに誇りを持ち「成功するまでやり続ければ失敗はない」との持論を実証すべくこれからも家族と共に活動が続けていきたいと思います。